

平成20年度夢づくり協働推進事業の実施状況 9

事業名

発達障がい児未来応援団事業

事業の概要

発達障害児は子育てのしづらさや対応の困難さから、児童虐待や不登校・引きこもり等の二次障害を引き起こす要因となることから、ライフサイクルに沿った体制づくりが急務である。

そこで、将来を見通した自立を支援するために、本年度は発達障害児の思春期以降についても焦点をあてながら、地域の関係機関や医療機関・親の会等が協働した体制づくりや各種事業を推進した。

協働の主体、役割分担

協働の主体	役割分担
運営会議： ・親の会（ピュアハート総社・歩いていこう・ビリーブの会） ・行政福祉（早島・浅口・高梁・新見、児童相談所、備中県民局福祉振興課） ・発達障害者支援コーディネーター（新見市委託） ・保健（保健所：倉敷・井笠・高梁・新見、市町：総社・井原・高梁・新見） ・教育委員会（総社・笠岡・高梁・新見） ・幼稚園（総社市久代、高梁市高梁・新見市哲西） ・特別支援学校（西備・早島・健康の森） ・高等学校（矢掛・井原市立） ・保育所（早島町早島・矢掛三谷・高梁市高梁・新見市新見） ・吉備国際大学 ・NPO法人（Color、いちばんぼし、風の音） ・医療（総社市：三宅内科小児科医院） ・おかやま発達障害者支援センター	共通的な役割 ・情報交換 ・事業の計画作成や決定 ・進行管理 ・研修 グループ別役割 ・4グループに分かれ事業検討、実施協力 個別的な役割 ・学識経験者のアドバイス ・事業受託 ・専門的アドバイス 〃
備中県民局	・3事業の委託、運営会議の招集、会議の進行、直営事業の実施、事業の総合評価
倉敷・新見保健所	・直営事業の実施、
倉敷・井笠・高梁・新見保健所	・事業の総合評価

実 施 状 況

1 運営会議

NPO法人、親の会、保育所、幼稚園、特別支援学校、高等学校、大学、医療、教育・保健・福祉行政等のメンバー43人で構成する運営会議（全体会）を年間5回開催し、発達障害に対する課題や連携について検討及び研修を行った。

また、グループ別に分かれ具体的事業の検討を行い、実施・評価をした。

2 ピアサポーター育成支援事業 業務委託先・・・NPO法人 Color

保護者自身同士が悩みや課題を共有したり、親の会としての取り組みを進めるために、「親の会」の支援を行った。また、「親の集い」では親の会が立ち上がっていない地域に対しては立ち上げるための機運づくりとなるように開催し、さらに、保護者が子どもに対してより適切な対応ができるように研修をあわせて実施した。

「おとうさん・おかあさん・こども交流大会」では、備中県民局管内の親子が広く交流することで保護者の視野が広がったり、子ども達にとっては社会体験が広がるように工夫し、また、親子ともどもリフレッシュできることを目的に開催した。

さらに、学生にとっては発達障害児へのより自然な形での接し方を学ぶ機会とした。

【企画会議の開催】 ピアサポーター育成グループメンバー 内容の協議

【親の会の支援】

管内にある5カ所の「親の会」の内の3カ所（ビリーブの会、歩いていこう、ぶどうの会）へセルフヘルプグループとしての成長を促すためにコーディネーター等を派遣した。

会 名	ビリーブの会 (浅口市)	歩いていこう (井原市)	ぶどうの会 (高梁市)
参加者数	30人	23人	10人
コーディネーター名	香川大学 教授 武蔵 博文	NPO 法人 いちばんぼし佐藤慶一	ビリーブの会・ 歩いていこう保護者



【親の集いの開催】

4保健所の4地域で「親の集い」を開催した。

実施年月日	実 施 内 容 等
共 通	内 容：講演、フリートーク 講 師：川崎医療福祉大学 医療福祉学部 准教授 小林信篤 参加者：保護者、子ども、ピアサポーター育成支援事業グループメンバー

実施年月日	実 施 内 容 等
第1回 9月27日(土) 13:30～15:30	テーマ： 発達障がい児の行動の特徴 会 場： 高梁市成羽健康管理センター 参加者： 保護者22人 
第2回 10月4日(土) 13:30～15:30	テーマ： 幼児期から就学に向けての 支援 会 場： 新見市保健福祉センター 参加者：保護者21人 託児風景 
第3回 11月1日(土) 13:30～15:30	テーマ： 学校・地域との関わり 会 場： 総社市保健福祉センター 参加者： 保護者25人 
第4回 11月15日(土) 13:30～15:30	テーマ： 将来を見通した支援 会 場： 井原保健福祉センター 参加者： 保護者28人 

【おとうさん・おかあさん・こども交流大会】

実施年月日	実 施 内 容 等
10月16日	企画会議 ヒ・アサホータ育成支援事業グループメンバー
12月6日 (土) 13:00～ 16:00	会 場：高梁市備中総合センター 内 容： ①レクリエーション (家族スタンプラリー、宝探しゲーム他) ②おとうさん交流会 (アドバイザー おかやま発達障害者支援センター所長 土岐淑子) ③おかあさん交流会 (アドバイザー 川崎医療福祉大学医療福祉学部准教授 武井祐子) ④おとうさん・おかあさん交流会 ⑤まとめ講演(土岐所長) 参加者：保護者22人(内父親8人)・こども25人・学生20人 合計67人

3 「体感研修会」 業務委託先・・・NPO 法人 風の音

関係者間の相互の連携や協力体制づくりを目指し、モデル事業を基に体感型研修を実施することで、子どもの困り感を知り、支援について考える機会とした。体感研修会を実施するにあたり、事前準備として企画会議、及び、学生に対する事前研修会、学生研修会を実施し、学生に積極的に体感研修に参加してもらった。

【体感研修会の開催】

実施年月日	内容・講師等
平成 20 年 10 月 25 日（土） 13：30～16：00	会 場：新見市公立短期大学学術交流センター 内 容：①学生によるロールプレイ ②グループワーク ③まとめ講演 「『困った行動』には理由がある」 講師：中国学園大学子ども学部・子ども学科 教授 荻野竜也 氏 ④図書の展示 参加数：支援者 21 人、保護者 21 人、学生 20 人 合計 62 人
 	
ロールプレイ中 講義中	

【企画会議の開催】 体感研修会グループメンバー 内容の協議

【事前研修会の開催】

実施年月日	内容・講師等
平成20年 9月27日（土） 10：00～11：30	会 場：新見市公立短期大学学術交流センター 内 容：事業説明・ロールプレイ・ディスカッション 講 師：中国学園大学子ども学部・子ども学科教授 荻野竜也 氏 参加数：学生 31 名

【学生研修会の開催】

- ①発達障害児のモデル事例を基に体感型研修をすることで、子どもの困り感を知り、学生なりの支援について考える機会とした。
- ②発達障害児に関する学生ボランティアを育成した。
- ③学生研修会終了後体感研修会に参加することで、発達障害児を支援する関係機関と知り合う機会をもつ。

実施年月日	内容・講師等
平成20年 10月11日（土） 13：30～16：00	会場：新見市公立短期大学学生会館 内容：事業説明 ロールプレイ グループワーク 全体ディスカッション 講師：吉備国際大学社会福祉学部 教授 保積功一 氏 参加学生数：28人 

- 4 「事例集作成」 業務委託先・・・NPO 法人 いちばんぼし
発達障害児のそれぞれの個性を理解し、寄り添う支援をしていくために、保護者や保育、教育現場での対応事例を収集した事例集を作成し、関係機関、保護者（親の会）等に配布し、今後の対応への参考にしようことを目的とした。

【企画会議の開催】

事例集作成グループメンバー 企画の検討他 7回 36人

【事例集】配布先

備中県民局管内全保育所・幼稚園・小学校・中学校・
特別支援学校（岡山南を含む）親の会等約370カ所



- 5 「出前講座」 直営・・・倉敷保健所・新見保健所

発達障害が疑われる子どもの多くは、幼児期の集団生活の場で、行動上の問題がよく出現しているため、子どもが集団生活を営んでいる保育所・幼稚園等の保育士・幼稚園教諭に対し、アンケート調査を行うとともに、専門家、保健師等を派遣して具体的な現地研修を実施した。

【実施状況】 実施時期：平成20年7月～平成21年3月

市町名	実施指導所・園数	指導保育士教諭数	指導園児数	派遣講師名
総社市	7カ所 13回	94人	122人	特別支援スーパーバイザー 杉 哉子
早島町	4カ所 8回	33人	95人	相談支援相談員 大岡孝之 早島養護学校 発達障害児コーディネーター 教諭 横畑洋子・田村増江
新見市	4カ所 7回	14人	47人	児童相談所 児童心理士 藤田美穂
その他	派遣講師	管轄保健所	保健師、市町保健師	行政保育担当（総社市）

- 6 「思春期対応事業」 直営

思春期以降の発達障害児はその障害特性のために、就労に困難を抱えたり、二次障害を引き起こすことがある。そのため、

- ①二次障害予防の視野に入れた実態調査を実施し、今後の対応を考える基礎とする。
- ②保護者・関係者の話から就労に関する現状を知り、併せて、家族を含む関係者が発達障害のある人の自立と就労のために「今後、どのように関わるべきか」を考えるためのシンポジウムを開催した。

【企画会議の開催】 思春期対応事業グループ アンケート内容の検討他

【思春期以降の発達障害児の実態把握に関するアンケート調査他の実施】

- ・アンケート等依頼先：82小中学校、11高等学校、5親の会、4保健所
- ①小学校5年生以上中学3年生（通常学級、特別支援学級）の担任（倉敷・高梁・新見保健所管内）

- ②高等学校 1～3（定時制 4）年の全担任（井笠保健所管内全高等学校）
 ③親の会参加者（対象学年は①②と同様） ④保健所精神保健相談担当者

【就労関係ミニシンポジウムの開催】

実施年月日	平成 20 年 9 月 19 日 10:00～12:30		
会 場	備中県民局 会議棟	参加者	93 人（未来応援団メンバー15人）
テーマ：『発達障がい児・者の就労支援について ～現状と課題から考える今後の関わり方とは～』 ・コーディネーター 岡山県備中県民局健康福祉部福祉振興課障害福祉班長 菅野浩司 氏 ・シンポジスト 「親の立場から」 保 護 者 「相談を受ける立場から」 おかやま発達障害者支援センター所長 土岐 淑子 氏 「特別支援学校の立場から」 岡山県健康の森学園養護学校高等部 教諭 石川 隆一 氏 「職業相談の窓口の立場から」 倉敷中央公共職業安定所 専門相談部門 統括職業指導官 細川 一成 氏 「就業・生活支援の立場から」 倉敷障害者就業・生活支援センター支援員 大島美栄子 氏 ・意見交換・まとめ			
			

成果・効果

- 1 備中県民局管内広域で開催したことで、市町や関係機関等が課題の把握や情報収集を行うことができ、生活に身近な地域で新たな支援体制の拡充（出前講座の市町実施、自立支援協議会こども部会活動の活性化等）や充実（新しい親の会の発足）につながった。
- 2 管内市町の保健・医療・福祉・教育等の支援者と、保護者及びNPO法人等が、それぞれの役割や現状の情報交換、研修を継続して行ったことで、相互理解が深まり良好な支援関係につながった。また、グループ別に各種事業を展開したことで、より強い協働体制が推進された。
- 3 ライフサイクルに沿った体制づくりの一環として、乳幼児、学童時期のみでなく思春期、青年期の発達障害児に対する支援の具体的な支援システム、支援方法の構築の必要性を運営会議メンバーで確認できた。